



尾家啓之
新しい駅には
「ライメン村パート2」も有効
日本銀行旭川事務所長

「JR駅周辺再開発事業『北彩都あさひかわ』は旭川の今後100年を決する重要なプロジェクト。『私たちがつくった街』という意識を一人で

も多くの市民が持てるよう、市民一丸となつてアイデアを出し合うことが必要。そのためにはPR戦略も重要で、常に市民の関心を集め続けること

や、地元企業や地域にどのような恩恵があるのかを訴えていくことも大事です」と話す。

また、来年完成する新しいJR駅舎に関しては「旭山動物園だけではなく、道内外の人たちが新しくなった駅に行ってみたくなるといふような、人を呼び込む仕掛けがほしい。地元以外のお金が落ちるような仕組みを考える必要がある」と訴える。「キーワードは、日本最北の〇〇。最北の都市の特色を活かしなが

ら、駅に行けば北海道の歴史や文化が学べ、そして北海道の味覚が楽しめる。また道内のお土産がここで一度に買えるといった施設があれば便利です」と話す。

さらに、「駅を利用する観光客の中には、時間がないので永山まで行けないという人もいる。そんな観光客のために『ライメン村パート2』があるといいと思う。旭川ライメンと道内外の有名店の味競べをさせてもいいかも知れない」。